

理事会報告

令和2年度日本病跡学会定例理事会は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を踏まえて、6月27日・28日に予定していた第67回日本病跡学会総会を8月22日・23日に延期したため、令和2年4月30日～5月10日にかけてメールにて開催された。

下記の理事長による報告及び議題の検討がなされ、承認・決定された。総会での報告は8月の予定である。

1. 平成31年/令和元年度事業報告

a) 第66回日本病跡学会総会が令和元年7月6日、7日の両日、村井俊哉会長のもとで龍谷大学において開催された。

b) 日本病跡学雑誌編集委員会は令和元年7月26日、令和2年2月7日に開催され、新規投稿論文では原著4編、再投稿論文では原著1編につき審査し、原著4編を受理した。学会誌第97号(6月)、第98号(12月)を発行した。

2. 理事長の互選

山田和夫理事長の5年の任期満了に伴い、小林聡幸(自治医科大学精神医学講座)が新理事長に互選された。山田和夫氏は新理事長から常任理事を委嘱された。

3. 学会誌編集委員長の委嘱

小林の理事長就任に伴い、学会誌編集委員長が空席となるため、小林新理事長より斎藤環氏(筑波大学)が編集委員長を委嘱された。

4. 日本病跡学会賞の選考結果

下記の会員への授賞が選考委員長よ

り報告された。

学会賞：松本卓也氏

『創造と狂気の歴史——プラトンからドゥルーズまで』講談社、2019

奨励賞：横田謙治郎氏

「リュムケは統合失調症の移行と疎隔の背理において、自らの統合失調症親和性からすべり落ち、他者の時間性と創造性を語る」病跡誌97号

3. 平成31年/令和元年度収支決算(表)

学会誌制作費は、第96号の支払いが遅れて平成30年度会計にずれ込み、都合、3号分の支出となっている。

ここ数年、会費の納入が著しく悪く、学会運営に支障を来しはじめていた。確たる証拠はないが、5年間、学会事務を委託してきた秘書の能力不足・怠慢によるものと推測せざるを得ない。そこで会員管理業務をライフメディコムに委託し、令和2年4月から業務移行した。

会費徴収については、昨年の理事会で理事の協力を得、また、昨秋、秘書に任せず小林自ら宛先の印字を行って滞納者に請求したこともあり、会費収入は改善傾向にある。次年度へ300万円超の繰り越しができ、今後の会費徴収がスムーズにいけば学会経営は健全化されるものと思われる。他方、昨年は資金繰りがつかず第67回学会準備金をもらわぬまま自治医大で学会準備をしていたので、本年度予算には第68回と合わせて2年分の準備金が計上となり、またライフメ

ディコムへの事務移行費が 20 万円計上されている。

しかしながら今回の「会費まとめて徴収」を機に退会される方も少なからずいたので、会員各位には新規会員の勧誘をお願いしたい。

4. 監査報告

新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み、監事の事務局招集は控えた。昨年度会計は小林が通帳からエクセルに打ち込んで計算し、確認したことでご容赦いただきたい。

5. 令和元年度事業計画

a) 第 67 回日本病跡学会総会

会長 小林聡幸（自治医科大学）

2020 年 6 月 27 日（土）、28 日（日）

→8 月 22 日（土）、23 日（日）に延期

於：自治医科大学研修センター

b) 日本病跡学雑誌第 99 号、100 号の発刊

6. 令和 2 年度予算（表）

7. 次年度総会

令和 3 年度総会会長が選考され下記のとおり決定された。

第 68 回日本病跡学会総会

会長：寺尾 岳氏（大分大学）

於：未定

令和 2 年秋頃の見込み

日本病跡学会事務局

小林聡幸